

第4回陸前高田市総合計画審議会 議事録

日時：平成30年10月2日(火) 15:00～16:40

場所：陸前高田市コミュニティホール 大会議室

1 会長挨拶（代理：副会長）

総合計画の策定にあたり、これまで3つの分科会においてそれぞれ3回ずつ開催していただき、各分野について、様々な御意見をいただいたところである。

本日は、それらの御意見を踏まえて、全体で御意見をいただき、審議会として計画の素案をまとめ、これから各地区で開催される市政懇談会等において、広く市民の皆様にお示しをするとのことから、忌憚のない御意見等をいただくとともに、審議の円滑な進行に御協力をお願いしたい。

その後、市民の皆様からいただいたご意見等も反映させ、11月9日に開催予定の第5回審議会において、審議会として答申したいと考えているので、引き続き皆様の御協力をお願いしたい。

2 市長挨拶

先日、週末には、震災から7年半の節目でまちびらきを開催させていただいた。これまで、企業や国、県、市民の皆様などの力を借りて復興を進めてきたところであり、まだまだ続くわけではあるが、一つの区切りとして行わせていただいた。

皆様に御審議いただいているまちづくり総合計画が、陸前高田の未来に向けての計画となるものである。今日特に皆さんにお願いしたいのは、事前に委員の皆様からもいくつか提案をいただいているが、将来像を段々に絞っていかねばならないということである。これについて、10月5日から始まる市政懇談会において広く市民の皆様から御意見をいただき、最終的には一つに絞っていきたいと考えている。

今日御審議いただく素案をもって市政懇談会で意見を伺うこととしているため、今日の機会を逃さずに思っている御意見があれば教えていただきたい。

すばらしい計画にしなければならないと思っており、何よりも市民手作りというところが肝だと思われるので、よろしくをお願いしたい。

3 議事（陸前高田市まちづくり総合計画（素案）について）

(1) 総合計画（素案）全般について

【企画政策課 主任】

配布資料により説明

【委員】

基本理念に「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」が掲げられているが、今、世界では難民の問題がある。一方で国内では人口減少などの問題があるが、難民の受入れについて検討したことはあるか。国レベルの問題のため難しい部分もあると思われるが、ノーマライゼーションという崇高な理想を掲げている以上、今すぐとは言わなくても、将来のことを考え

た場合に検討する余地があるのではないか。

【市長】

難民の受入れについては、具体的に検討した経緯はない。国連の機関からは、陸前高田市がノーマライゼーションを掲げているので宣言都市になることについてお話しをいただいている。日本の政府はほとんど難民を受け入れていないが、これから少しずつ受け入れていくと思われることから、もし難民の受入れを陸前高田市で行うということになれば、当然市民の皆さんにも御相談し、併せて将来的には例えばどれくらいの人数であれば受け入れられるというやり方になると将来は考えられる。

【委員】

14 ページの将来人口のグラフについて、どのような考え方で推計したのか。

【企画部長兼企画政策課長】

平成 28 年に人口ビジョンとまち・ひと・しごと総合戦略を策定した際に、現状のまま推移した場合と総合戦略に掲げる取組を実施していく場合の 2 パターンの人口の推計を行った。

【委員】

人口減少を食い止めるための方策が反映されたものなのか、それとも自然のトレンドで推計したものなのか。人口規模は、税収や産業のマーケットなどにも関わってくる重要なものであるため、根拠を伺いたい。

【副市長】

何もしなければ減っていくというものを抑制した場合の推計値である。

【委員】

基本政策 16 の「安全・安心な学校教育環境を整える」について、総合計画は震災復興計画を継承するものとして、特に仮設住宅が建っている学校や新設された学校など、子どもたちが学ぶ環境に不便を強いられることのないよう改めてお願いしたい。

また、津波で浸水した小学校のうち、小友小学校だけ現在も使用しているため、そこを課題として捉えてほしいと以前に申し上げたことを受けて、現状と課題の最後のところに追記していただいたと思われるが、移転はせずにインフラ復旧が終わったら浸水区域外となるため、そのまま使うという理解でよいか。

【教育長】

小友小学校の課題としては、校舎の後ろにある歩道橋の整備や、安全なところに移動できる道の確保を最重点と考えている。現時点では小友小学校の移転を考えていないが、安全の確保に努めていきたい。

【委員】

小友町では学校に関する署名活動が行われているが、市の方針が十分に伝わっていないと思われることから、周知の徹底をお願いしたい。

【教育長】

丁寧に説明しながら進めていきたい。

【委員】

70 ページの基本政策 23「地域間の交流を促進する」について、交流先として名古屋市や米国クレセントシティ市に関する記載があるが、このコミュニティホールを訪れるたびに、シンガポールの支援があったからこそこの施設ができたと感じているため、シンガポールに関する記載を追加してほしい。

【市長】

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、陸前高田市とシンガポールは協定を結び、ホストタウンとしてシンガポールの選手団などにお越しいただくことで話を進めているので、ここにはシンガポールという名前をしっかりと記載させていただきたい。

【委員】

79 ページの基本政策 26「水産業の振興を図る」について、ホヤの水揚量に関する指標を加えてほしい。

【水産課長】

ホヤの水揚量は120数トンあるが、金額ベースにするとそれほど主要な産品ではないと判断していたものであるが、御意見を踏まえて追加することとしたい。

【委員】

金額ベースではそれほどとのことだが、生産から消費までの間に何らかの課題があるものと思われる。付加価値を付けて出荷することで所得向上が図られるようアドバイスや支援を行っていただきたい。

【副市長】

作ったものをいかにして売っていくのか、一連の流れで物事を考えていくことが大事だと思っている。いかに付加価値を付けて、消費者の皆さんに満足していただけるものを作っていくかということもしっかり考えていきたい。ホヤの生産量については、漁協さんとも話をしながら入れさせていただきたい。

【委員】

同じく基本政策 26「水産業の振興を図る」について、この辺りの海では、貝毒など様々な課題がある。これからのことを考えると、そういう影響がないものを作っていくという考えがあつて

よいと思う。

【副市長】

おっしゃるとおり、特に一次産業において自然の影響が猛烈になってきているため、自然の影響を受けにくくするための対策を考えていく必要があるものと考えている。例えば、海でやっているものを丘でやるとすれば、お金がかかっても貝毒が防げるかもしれない。そういう新しいことにチャレンジする姿勢を大事にしたいと思っており、また、チャレンジするものがあるということが、将来の陸前高田に住む人にとって魅力あるまちになるものと考えていることから、市としてもしっかり支えていきたい。

【委員】

85 ページの基本政策 29「地域資源を活かした観光振興を推進する」について、玉山金山を観光資源として活用していかないのか。

【商工観光課長】

個別の観光地の名前は出していないが、基本事業の方向の一つ目「新たな観光資源の活用と既存観光資源の磨き上げ」という部分で、震災前から玉山金山の観光地化を目指して市としても取り組んできた経緯があることから、引き続き観光地の一つとして玉山金山の磨き上げに取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

88 ページの基本政策 30「魅力ある雇用の創出と起業しやすい環境を整える」について、指標に「雇用の創出と起業しやすい環境の整備に満足している人の割合」とあるが、平成 35 年の目標が 30 パーセントというのは低いのではないか。陸前高田市はこれから多く起業していかねばならないまちだと思われ、また、起業しやすい環境を整備することは、今後のまちの重要なファクターになると思われる。

【商工観光課長】

昨年度から富山委員に先頭に立っていただき、起業や第二創業、被災地再建に取り組んできたが、まだまだ取組が足りず現状値が低くなっていることは真摯に受け止めたい。ただこれで終わるのではなく、今後 5 年間で 30 パーセントまで、10 年間で 40 パーセントまで上げていきたいと考えている。

【市長】

満足度であるため、現状よりよくなったと感じれば必然的に数値は上がるはずである。本当の意味で皆さんの満足度が 100 パーセントになることを目指すのは難しいが、企業や新しいお店が増えてくるなどの環境が目に見えてくれば、おのずと上がってくると思われるため、ここについては見直しをさせていただきたい。

【委員】

86 ページの基本政策 29「地域資源を活かした観光振興を推進する」について、指標に「地域資源を活かした観光振興の推進に満足している人の割合」とあるが、陸前高田市は、千昌夫や村上弘明などの有名人を輩出しており、このような方々にふるさと大使として市のPRに御協力をいただいていることから、指標を「地域資源及び人的資源の活用」に見直していただきたい。

【市長】

おっしゃった方々に限らず、陸前高田市を応援してくださっている方はたくさんいる。どういう名称になるかは未定だが、陸前高田市を応援してくださっている方に改めて委嘱していくことを考えている。そこで物流のお手伝いやPRをしていただくことは大事なことだと思っており、また、観光振興に寄与するものと考えていることから、文言を入れる方向で検討したい。

【委員】

87 ページの基本政策 30「魅力ある雇用の創出と起業しやすい環境を整える」について、小中高生に職業に関する学習の機会を提供することで、地域の将来を担う子どもたちに起業に関する関心を持ってもらえると考えるが、この辺りについてどのように考えているか。

【教育長】

子どもたちはいろいろな機会を捉えて成長するものであり、そのような機会は大事だと思っている。現状としては、キャリア教育として小学生の職場体験や、中学生への多様な企業を知ってもらう機会の提供などを進めている。その中に起業という要素を織り込み、工夫をしながら取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

60 ページの基本政策 18「市民の健康づくりを推進する」について、スポーツの推進自体が健康に寄与するというかたちにするためには、総合事業において運動療法等を取り入れていくほうがよいと思われるため、その辺りの記載をお願いしたい。

【民生部次長兼保健課長】

記載について検討させていただきたい。

【委員】

62 ページの基本政策 19「安心できる医療・介護・福祉体制を整える」について、介護そのものより介護を必要とする人を減らすほうが市の財政負担の軽減にもつながるため、介護予防について記載いただきたい。

【民生部次長兼保健課長】

基本政策 17 の「共生のまちづくりを推進する」の 58 ページの主な取組内容に、「介護予防から重度化予防までの連続的・効果的な支援を行う」と記載していることから、御理解いただきたい。

【委員】

22 ページの基本政策 1 「生活道路・交通環境を整備する」について、公共交通を必要としている人の足の確保につながるよう、市民の公共交通の利用を推進し、交通事業者による路線の維持を支援していただきたい。

【副市長】

おっしゃるとおりだが、コストの面も考えていかなければならないことから、いかにコストを抑えながら効率的な運行ができるかが重要である。自動運転や乗合タクシーなど、いろんな手法を試しながら、公共交通を利用する全ての人が、免許を返納しても自由に移動ができる環境を整えていきたい。そのためには、市民の皆さんにも御協力いただかなければならないところもあると思われるが、一緒になって進めていきたい。

【委員】

市民が公共交通を利用することによって何らかの特典を受けられることなどを施策として打ち出してもらえれば利用者数も増えると思われるが、その辺りで何か考えているか。

【副市長】

将来的に年をとって運転ができなくなったときに公共交通がなくなっている事態とならないよう、財政面との兼ね合いを考慮して検討していく必要がある。

【委員】

普段自家用車を運転している人は、いざ公共交通を利用しようとしたときに乗り方が分からないと思われる。その対策として試乗会を開催することなどについて検討いただきたい。

【委員】

56 ページの基本政策 17 「共生のまちづくりを推進する」について、現状と課題の最後のところが「児童・高齢者・障がい者相互のつながりを深め」という対象を限定した記載になっているが、もっと幅広く地域コミュニティづくりを深めていくことが大事であるため、記載内容を見直していただきたい。

【企画部長兼企画政策課長】

おっしゃることはごもっともであるため、改めさせていただきます。

【委員】

85 ページの基本政策 29 「地域資源を活かした観光振興を推進する」について、現状と課題のところに「体験交流や地域の歴史・文化、特性などを活かした観光地づくり」とあるが、陸前高田市には山・海・川というすばらしい自然があるため、「自然」という文言を追加いただきたい。

【商工観光課長】

「自然」という言葉を追加させていただく。

【委員】

91 ページの基本政策 32 「広聴広報活動の充実を図る」について、現状と課題の欄に「市民からの声を市政に反映させ、協働によるまちづくりを推進するため」とあることから、成果指標項目の中にも協働によるまちづくりに関するものを追加いただきたい。

【市長】

67 ページの基本政策 21 「協働によるまちづくりを推進する」に関連する指標があるため、ここで網羅しているという考え方になると思われる。

(2) まちの将来像の選定方法について

【企画部長兼企画政策課長】

配布資料により説明

【委員】

事務局からの提案どおり、本日は示された6つの案から各委員が3つを選んで投票することにより。

【企画部長兼企画政策課長】

事務局としては、11月に開催予定の第5回審議会までに一つにまとめていただければと考えている。手法としては、本日選んでいただいた上位3つを市政懇談会やパブリックコメントで示して市民から意見を伺い、第5回審議会の開催前にこれらの意見を委員の皆様にお示しするとともに、改めて各委員から一つを選んでいただくことが考えられる。また、会長や副会長などから構成される選定委員会を立ち上げ、その中である程度候補を絞っていただき、審議会の際にお示しする手法も考えられる。いずれ、委員の皆様が決めやすい方法で決めていただきたい。

【委員】

今日は3つの案を選んでというふうに進めていくと、なかなか決まらないと思われるため、今日最も投票数が多いものを候補とすることはいかがか。

【委員】

3つ選ぶとのことだが、1つ選ぶことでもよいのか。

【副会長】

1つでも構わない。

【委員】

パブリックコメントなどを行う際には、2番目と3番目に多かったものも示したほうがよいと

思われるため、御考慮いただきたい。

【市長】

この場で1つに決まれば、それはそれで委員の皆様の御意見を尊重したいと思うが、選択肢を1つとした場合に、市政懇談会で市民の皆さんがよいか悪いか意見が言えなくなることが気になるため、田畑委員の御意見のとおりの方法でもよいと思われる。

【委員】

3つ選ぶことはよいが、順位を付けて1位は3点、2位は2点、3位は1点というように点数制としてはどうか。

【委員】

点数制にした場合、丸の数が少なくても点数が高ければ採用される可能性があるため、単純に丸の数で選んだほうがよいと思う。

【委員】

点数でも丸の数でも、結局気に入ったもの3つに丸を付けるものであるため、自分が気に入ったものが採用されなくても民主主義で多数決の原則に基づくという共通認識を持っていれば、手法は問わないと思われる。

【副会長】

それでは本日は気に入ったもの3つに丸を付けていただきたいと思う。その後、上位3つを市政懇談会等で市民にお示しして出された市民からの意見を委員の皆様に報告し、最終的に委員の投票で1つを選定することとしたい。

(以上)